

1. 件名：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構高速実験炉原子炉施設の設置変更許可申請に係る事業者とのヒアリング（106）

2. 日時：令和3年11月10日（水）13：30～16：30

3. 場所：原子力規制庁10階会議室
本ヒアリングは、テレビ会議システムで実施

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 審査グループ 研究炉等審査部門

菅原企画調査官、有吉上席安全審査官、小舞管理官補佐、

片野管理官補佐、島田安全審査官、羽賀技術参与

長官官房 技術基盤グループ システム安全研究部門

石津主任技術研究調査官、園田技術研究調査官、

藤田(哲)技術研究調査官

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

安全・核セキュリティ統括部 安全・核セキュリティ推進室 担当者

大洗研究所 高速実験炉部 担当者2名

5. 要旨

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「原子力機構」という。）から、配布資料に基づき、審査会合における指摘事項への回答及び常陽遷移過程における事象推移への対応について説明があった。なお、配布資料は、令和3年11月9日に実施したヒアリングで使用したものと同一である。

原子力規制庁からは、以下の点を伝えるとともに、本日説明のあった内容については引き続き確認していく旨伝えた。

- 燃料（溶融燃料と未溶融の燃料粒子の混合物）と炉内構造物（溶融したスチール）の混合状態を SIMMER コードでどのように取り扱っているのかを説明すること。また、遷移過程において、燃料とスチールの分離の可能性がないかも説明すること。
- 燃料と炉内構造物の流動に係る物性値をどのような条件で測定したのかを説明すること。

原子力機構から、承知した旨の返答があった。

6 . 配布資料

資料 1 : 「常陽」の遷移過程の事象推移

資料 2 : SIMMER の多成分多速度場におけるスロッシング挙動への適用性

資料 3 : 即発臨界超過時の燃料凝集量 (Coagulation) の評価

資料 4 : 機械的エネルギー発生に係る不確かさ

資料 5 : 機械的応答過程の解析結果の比較